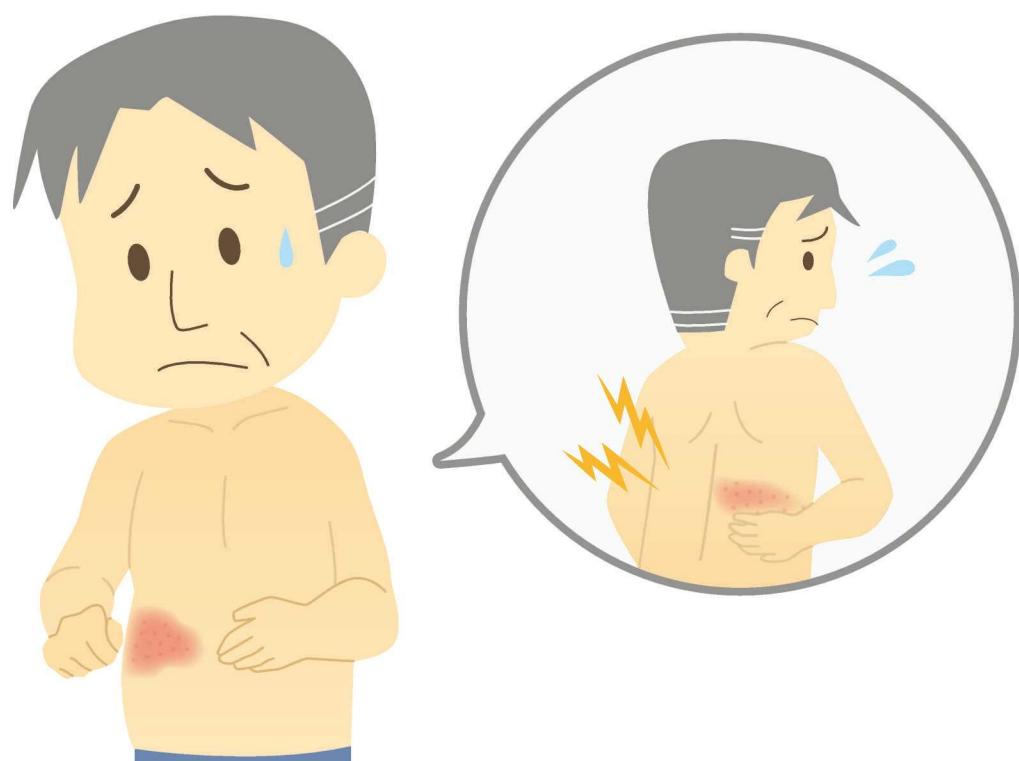


# 帯状疱疹

～予防と早期の治療が大切です～





# 目 次

1. はじめに
2. 原因
3. 症状
4. 発症部位
5. 発症年齢・性別
6. 合併症
7. 診断と検査
8. 治療
9. 日常生活上の注意点
10. ワクチンによる予防
11. おわりに

## 1 はじめに

帯状疱疹は身体の左右のどちらかに小さな水ぶくれを伴う赤い発疹が帯状にあらわれる病気です。多くの場合、強い痛みを伴います。

帯状疱疹は加齢にともない増加する傾向があり、高齢化が進んでいる我が国では現在この帯状疱疹にかかる方が増えています。

## 2 原因

帯状疱疹の原因是「水痘・帯状疱疹ウイルス」です。このウイルスに初めて感染しますと、水ぼうそう（水痘）を発症します。

水ぼうそうが治っても「水痘・帯状疱疹ウイルス」は知覚神経の神経節という所に、ずっと潜んで棲みつづけます。

このウイルスは、ふだん人体の免疫システムにより抑え込まれていますが、ストレス、過労や加齢により免疫力が低下すると、再び増加して活動し始めます。活発になったウイルスが神経節を出て、神経に沿って皮膚に移動し、皮膚や神経を傷つけ帯状疱疹として発症します。

### 3 症状

#### (1) 皮膚症状

身体の左右のどちらか一方の神経の分布に沿って帯状に皮疹を生じます。

初めは紅斑（赤い斑点）が現れ、次にその中に小水疱（小さめの水ぶくれ）を生じます。小水疱はやがて膿疱（黄色い膿をもつ水ぶくれ）になります。さらにびらん（ただれ）、潰瘍（深めの皮膚の欠損）、痴皮（かさぶた）になることもあります。

#### (2) 痛み

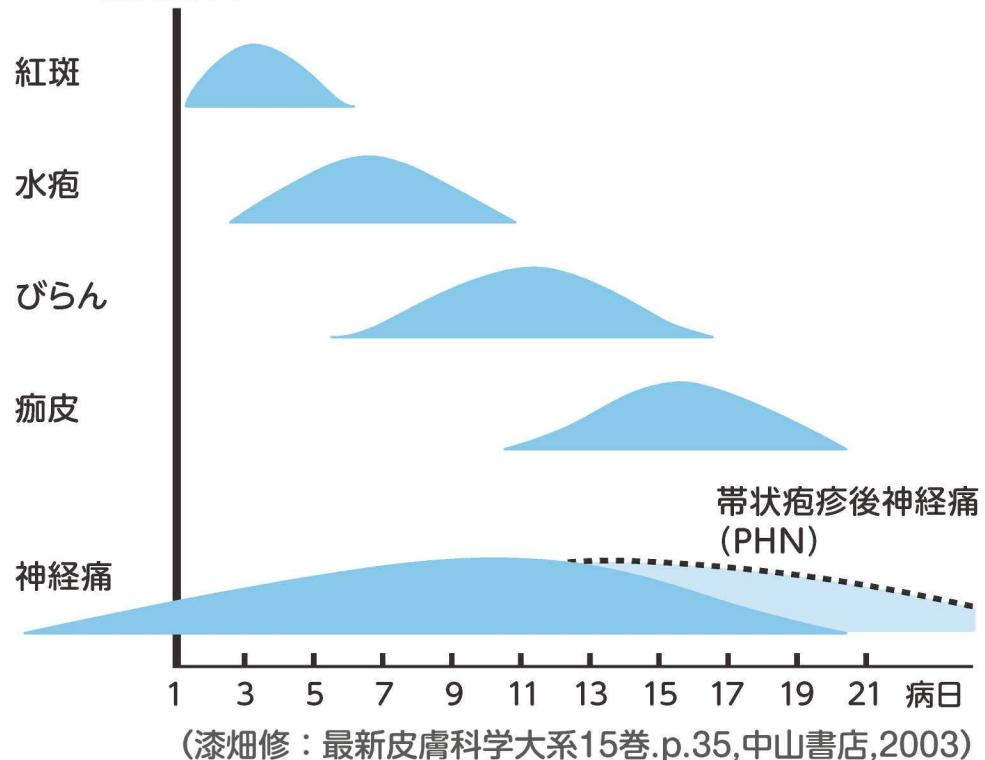
発症部位の神経の分布している領域には痛みを伴うのが特徴です。痛みは「ピリピリ」、「チクチク」といった痛みや鈍痛など様々なものがあります。

前駆痛として皮疹が出る数日から1週間前に痛みを訴えることがあります。この時、頭痛、胸痛、腹痛、腰痛などと間違えられることがあります。

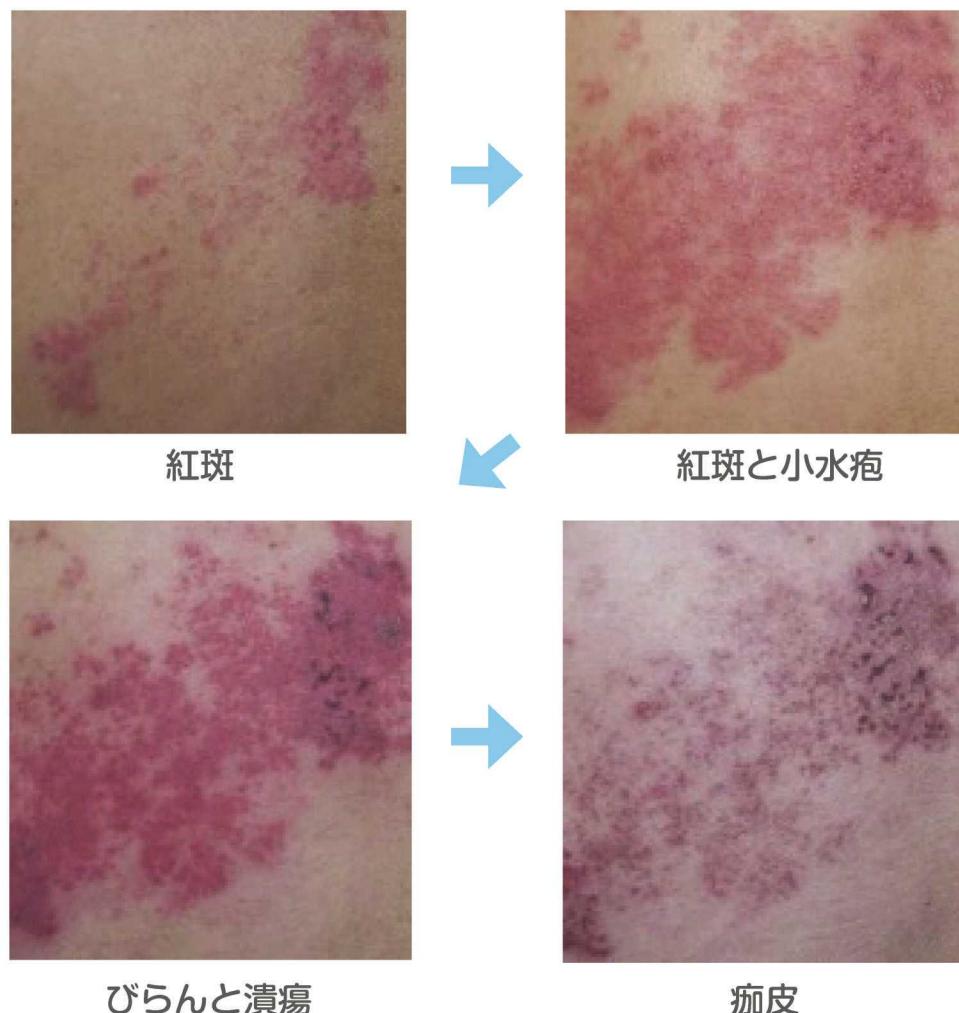
急性期痛は皮疹がみられる間の痛みで、痛みの強さは軽いものから、日常生活が困難になるほどの耐えがたい激しいものまであります。また触るだけで痛くなったり、痛みが強くなったりすることがよくあります。

痛みは皮疹が治るにつれて、軽くなり、消失してゆくことが多いですが、帯状疱疹が治っても痛みが長期間続くことがあります（帯状疱疹後神経痛）。

## 帯状疱疹の一般経過



## 皮疹の経過



## 4 発症部位

身体のどこにでも発症しますが、とくに発症しやすい部位としては、体幹部と頭部から顔面にかけての部位があげられます。

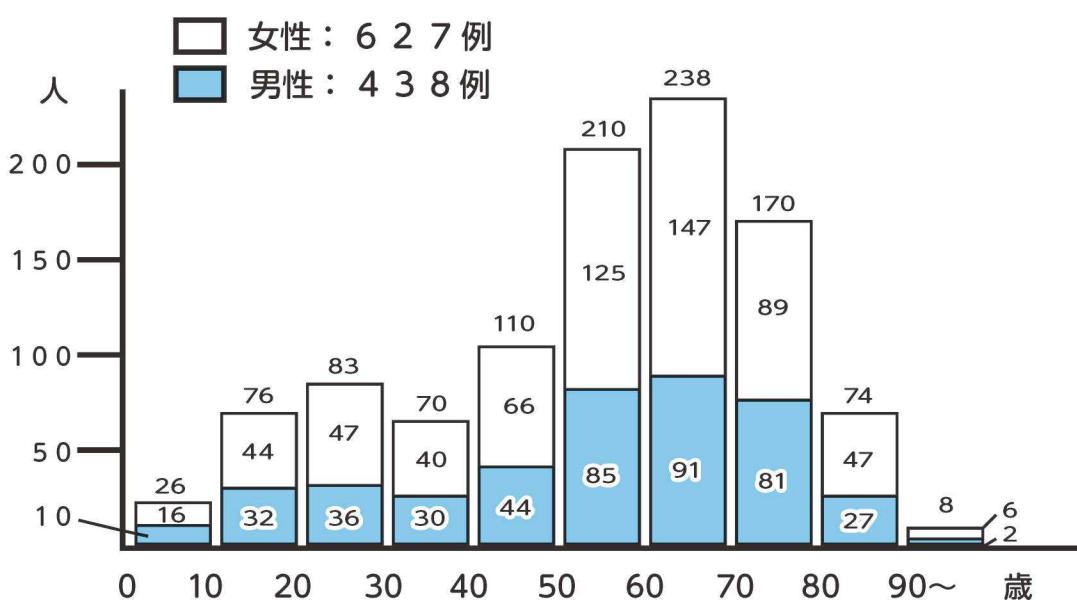
まれに皮疹が全身にみられることがあります。汎発性帯状疱疹と言います。ウイルスが血液を介して全身にばらまかれたためと考えられ、がんなどで免疫力が低下したときにみられることがあります。

## 5 発症年齢・性別

60歳代を中心として50歳代から70歳代に好発しますが、若い世代にも発症がみられます。

性別では、女性に多いです(男：女=1:1.4)。

### 年齢別患者数



(多施設合同による年間統計(2000年4月～2001年3月)  
日皮会誌113巻8号より改変)

## 発症部位



額や眼の上部  
(三叉神経第1枝領域)



左前胸部



左腹部



右臀部



右大腿

## 6 合併症

### (1) 帯状疱疹後神経痛

帯状疱疹が治っても痛みが残ることは先に述べましたが、とくに皮疹が出た時から3ヶ月以上続くものを帯状疱疹後神経痛と言います。

帯状疱疹の急性期の痛みはウイルスが神経に炎症を起こして生じる痛みですが、帯状疱疹後神経痛を含む慢性期の痛みは、神経そのものが障害されて生じる痛みです。神経の障害は元に戻りにくく、それによる痛みも治りにくくなるのです。

高齢者や帯状疱疹の初めの症状がひどい方に多いようです。この痛みにより、つらい生活をおくることになることもあります。これを防ぐには早めの治療が必要といわれています。

### (2) 眼の合併症

結膜炎、角膜炎やぶどう膜炎など眼の合併症を生じることがあります。帯状疱疹が、とくに額や眼の上部（三叉神経の第1枝領域）に生じたときにみられることがあります。視力低下をおこすことがありますので注意が必要です。

### (3) ラムゼイ・ハント症候群

顔面神経が障害されておこり、顔面の片側が麻痺し眼が閉じにくくなったり、口に力が入らず、しゃべりづらくなったり、食べ物や飲み物が口からこぼれたりします。

さらに耳が聞こえにくくなり、耳鳴り、めまいなども生じることがあります。帯状疱疹が耳の近くに生じたときには注意が必要です。

## (4) その他

帯状疱疹が四肢に生じた場合には手足などが動かしにくくなることがあります。

臀部に生じた場合は尿が出にくくなったり便秘になることがあります。

腹部に生じた場合は腹部がふくらんだり便秘になることがあります。

## 7

## 診断と検査

一般に帯状疱疹の典型的なものは皮疹などの症状から診断できことが多いのですが、痛みがない、皮疹がわずかしか見られないとか、皮疹がないときは診断が難しくなります。

水ぶくれをひっかいて得たものをスライドガラスにぬり、染色して顕微鏡で見るツアンク試験があり、簡単に行え便利です。

また、水痘・帯状疱疹ウイルス抗原検出キット（デルマクイック<sup>®</sup> VZV）は、外来ですぐに結果が得られ、より確かな診断ができる検査法です。

## 8

## 治療

### (1) 抗ヘルペスウイルス薬

帯状疱疹の治療の基本は水痘・帯状疱疹ウイルスの増殖をおさえる作用のある抗ヘルペスウイルス薬の内服または点滴投与です。

軽い症状から中等度のものでは内服を行いますが、重症例では入院の上点滴による投与を行います。

内服では効果があらわれるまで2～3日かかります。できるだけ早期に投与を始めることが大切です。早期の抗ヘルペスウイルス薬の投与は、帯状疱疹の治癒を早めるのみならず帯状疱疹後神経痛の予防にも効果があるといわれているためです。

また薬剤によっては腎機能にあわせた用量の調整が必要なため、とくに腎機能が低下しがちな高齢者では注意が必要です。

## (2) 消炎鎮痛薬(痛み止め薬)

アセトアミノフェン、非ステロイド系消炎鎮痛薬などが痛みを抑えるために処方されます。

急性期に強い痛みが続くと、痛みが慢性化しやすくなると言われています。痛みは極力我慢せず痛み止め薬を服用し医師の指示通り飲み続けましょう。

## (3) その他の薬剤

急性期の痛みの強い時や、ラムゼイ・ハント症候群などの合併症がある場合はステロイド剤が投与されることがあります。

痛みの強い時、とくに慢性痛に対しては、抗けいれん薬、抗うつ薬、麻薬性鎮痛薬などが投与されます。

## 痛みのとくに強い時に投与される薬

種類	薬品名
抗けいれん薬	プレガバリン、ガバペンチン、ミロガバリンベシル酸塩
三環系抗うつ薬	アミトリプチリン、ノルトリプチリン、イミプラミン
セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬	デュロキセチン
麻薬性鎮痛薬	トラマドール
その他	ノイロトロピン®

#### (4) 神経ブロック

通常の鎮痛薬などで痛みをおさえきれない場合に行われます。神経の近くに注射針を刺して薬剤を注入して、痛みの情報が脳に伝わるのを一時的にブロック（遮断）する方法です。麻酔科やペインクリニックで行われています。

### 9 日常生活上の注意点

- (1) 処方されたお薬はきちんと服用しましょう。
- (2) 過労を避け、ストレスをへらし、充分に睡眠をとりましょう。残業や激しい運動を極力避けましょう。
- (3) アルコールはひかえましょう。
- (4) 患部は冷やさないで、できるだけ温めましょう。帯状疱疹の痛みは冷やすと強くなり、温めると軽くなる傾向があります。
- (5) 入浴やシャワー浴で患部を温め清潔を保つことが大切です。
- (6) 発疹が乾燥していない時期には、水ぼうそうにまだかかってなく、水ぼうそうの予防接種を受けていない子供さんと接触すると、水ぼうそうを発症させる可能性があります。

### 10 ワクチンによる予防

帯状疱疹は治療をきちんと受けても、痛みなどの後遺症や合併症を完全に予防できるわけではありません。後遺症などにより多くの人が苦しんでおられるのが現実です。これに対する最良の対処法は予防することです。

現在、帯状疱疹を予防できるワクチンが2種類あり、50歳以上の方でしたら接種を受けることができます（全額自己負担）。

## 帯状疱疹予防ワクチン

	生ワクチン 「ビケン」	組換えワクチン 「シングリックス」
注射回数	1回	2回
発症予防効果	50%～60%	90%以上
副反応 (筋肉痛、倦怠感など)	少ない	多い
免疫の低下している人	使えない	使える

## 11 おわりに

現在、帯状疱疹の診断や治療はかなりの進歩がみられます。しかし、いまでも痛みがいつまでも残る方もおられます。帯状疱疹は早期に適切な治療を受けることにより痛みを残す危険性を減らせます。帯状疱疹を疑ったら早めの医療機関への受診をおすすめします。

また、50歳以上の方にはワクチン接種による予防をおすすめします。